

## 湿地性カラー新品種 「Brilliant·Bell（ブリリアント・ベル）」の育成

金子 洋平

千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 野菜・花き研究室

### 1. はじめに

千葉県君津市は全国有数の湿地性カラー産地である。しかし、1988年ころから産地ではカラー疫病が多発したため、これまでの主力品種「チルドシアーナ」から疫病抵抗性を持つ「ウェディングマーチ」へ品種転換した。しかし、「ウェディングマーチ」は開花が春に集中し、需要期の10~12月に切り花の収穫が少なく、花茎が太いなどの問題がある。また、「ウェディングマーチ」と「チルドシアーナ」を交配した県育成品種「アクアホワイト」（2002年品種登録、登録番号第10578号）は、花（苞）の色が純白で切り花品質が優れるものの、草勢が弱く、は場によっては収量性が低いという問題がある。そこで、安定した疫病抵抗性と早期開花性を持ち、産地としてバリエーションを増やせるような新たな特徴を持つ湿地性カラーの育成が生産者から望まれていた。今回、千葉県では「アクアホワイト」以来、20年ぶりとなる新品種「Brilliant·Bell」（写真1、写真2）を育成したので紹介する。

### 2. 育成および愛称決定までの経過

千葉県農林総合研究センター野菜・花き研究室（千



写真2 「Brilliant·Bell」の栽培風景（君津市内）

葉県館山市）にて、2009~2010年度にかけて交配し、得られた約8万粒の種子をもとに選抜を開始した。2011~2012年度に疫病菌接種検定を行い、疫病抵抗性を持つとみられる177系統を選抜した。2013年度には生育や収量性に優れる13系統を選抜した。

これら13系統について、2014年度から君津市内の生産者は場2か所で現地試験を開始し、栽培開始2年目には、生産者と関係機関が参加した現地検討会において、開花期が早く、切り花品質が良好な3系統に絞り込んだ。

さらに2年間、生育状況や収量性を調査して現地検討会を重ねた結果、「千葉C2号」が有望とされたことから、2019年6月12日に品種登録出願を行い、2022年3月15日に「千葉C2号」として登録された（登録番号第29076号）。

「千葉C2号」の切り花出荷開始に向けて、新品種の愛称を一般公募し、愛称を「Brilliant·Bell」に決定した。白いベルのような花からのイメージで、未来を輝かせる新しい門出に、お祝いの鐘の音が響きますように、という祈りが込められている（愛称名「Brilliant·Bell」は2021年5月11日に商標登録済み）。

### 3. 新品種の特徴



写真1 「Brilliant·Bell」の花（苞）

「Brilliant·Bell」の切り花は、慣行品種「ウェディ

ングマーチ」や「アクアホワイト」の切り花に比べて、花(苞)の長さがやや短く、花茎は細い(写真3, 表1)。正面から見た場合、苞の重なり部分が慣行品種に比べて、少ない特徴がある(写真1, 写真3)。また、「Brilliant・Bell」の苞の色は、「ウェディングマーチ」と同色(RHS カラーチャート NN155A)で、純白の「アクアホワイト」(同 NN155C)と比較した場合は、ややクリーム色である(表1)。

「Brilliant・Bell」を現地ほ場に定植して2年目の収穫開始から終了までの株当たり収穫本数は、「ウェディングマーチ」9.6本に対して「Brilliant・Bell」25.7本であった。同様に定植して3年目の収穫本数は、「ウェディングマーチ」13.2本に対して「Brilliant・Bell」は37.4本であった(表2)。このように、「Brilliant・Bell」は「ウェディングマーチ」に比べて、2年目以降に約2.5倍以上の収穫本数が期待できる多収性品種である。

一般的に10~12月はカラー切り花の需要期であり、高単価が期待できる。「Brilliant・Bell」は慣行品種に比べ早生であり、10~12月の株当たり収穫本数は、「ウェディングマーチ」および「アクアホワイト」に比較して多いことから収益性が期待できる。

「Brilliant・Bell」の根の疫病発病程度は、抵抗性品種である「ウェディングマーチ」より高く、「アクアホワイト」よりも低い(表3)。また、疫病が発生している現地ほ場においても問題なく生育していることから、「Brilliant・Bell」の疫病抵抗性は実用上十分な強さがあると考えられた。

#### 4. おわりに

「Brilliant・Bell」の切り花は、慣行品種の切り花と比べて小ぶりで花茎が細いため、冠婚葬祭などの業務需要のみならず、小型のアレンジやブーケにも使いやすく新たな需要が期待されている。2021年秋から切り花の市場出荷が始まっており、今後の市場評価が注目されるところである。

「Brilliant・Bell」の栽培にあたっては、千葉県と品種利用許諾契約を締結した生産者にのみ原原種苗の有償配付が行われている。なお、許諾契約先は千葉県内生産者に限られている。

〒294-0014 千葉県館山市山本1762

(かねこ ようへい)



写真3 左から「Brilliant・Bell」、「アクアホワイト」、および「ウェディングマーチ」の花(苞)

表1 各品種の切り花品質<sup>1)</sup>

品種	切り花長(cm)	花(苞)の長さ(cm)	花茎の太さ(cm)	花(苞)の色 <sup>2)</sup>
Brilliant・Bell	70.6	10.4	1.0	NN155A
アクアホワイト	66.4	11.2	1.2	NN155C
ウェディングマーチ	78.8	13.1	1.7	NN155A

注1) 君津市内の現地2か所で定植2年目に得られた切り花を調査した。平均値は、切り花長は得られた切り花すべてを、花(苞)は2016年4月15日以降の切り花を調査。花茎の太さは花茎中央部の太さ(直径)。

2) 花(苞)の色はRHS カラーチャートによる。

表2 各品種の株当たり収穫本数<sup>1)</sup>

品種	株当たり切り花収穫本数 <sup>2)</sup>		
	1年目	2年目	3年目
Brilliant・Bell	1.6	25.7	37.4
アクアホワイト	1.2	3.3	3.2
ウェディングマーチ	1.1	9.6	13.2

注1) 君津市内の現地2か所で調査した(調査株数は4株と6株)平均値。2か所とも、肥沃な土壌を好む「アクアホワイト」には適さない圃場条件。定植日は2013年11月26日。

2) 現地試験1年目は2014年12月~2015年5月、2年目は2015年6月~2016年6月、3年目は2016年7月~2017年6月の収穫本数。

表3 各品種の疫病発病程度<sup>1)</sup>

品種	疫病発病程度		
	場内汚染圃場		現地圃場
	2016年	2017年	2018年
Brilliant・Bell	1	3	3.5
アクアホワイト	—	—	5.0
ウェディングマーチ	2	—	1.0
チルドシアーナ	6	—	6.0

注1) 疫病発病程度は16cmポット植えの株を供試、場内汚染ほ場に1か月以上置いた後、根の腐敗程度を次の7段階で評価し、指数を示した(n=1)。

0:発病無し、1:わずかに腐敗、2:50%未満、3:50%程度、4:50%以上、5:全体的に腐敗、6:完全に腐敗して脱落。

現地は2018年11月にポットの底を抜いてほ場に置き、翌年3月に同様に調査した(n=4)。